

スのJean Bourgeois-Pichat博士、ベルギーVrije大学のLesthaeghe教授、モンリオール大学のJaques Henripin教授、スタンフォード大学博士課程のウスイ・チカコ女史、それに河野の5名であった。

内容については、将来何等の形で報告したいが、先ずBourgeois-Pichat博士がヨーロッパの超低出生率の要因と結果に関する基調報告を、そしてPreston教授が北米・オーストラリア・ニュージーランド・日本についての同じテーマについての基調報告を行い、あとは要因の数々、その結果の数々（例えば高齢化）についてセッションが行われた。最後にDavis教授が全体のまとめを行った。低出生力の要因については特に新しいことはない。河野は日本の低出生率の原因として、日本での資源の稀少性、そこから来る猛烈な競争の烈しさ、受験戦争が背後にあるのではないかと提案した。他方、低出生率の効果—人口高齢化については、あまり日本に見られるような悲観論が強くないのが特徴である。（河野稔果記）

ＪＩＣＡ「メキシコ人口活動促進プロジェクト」への協力

国際協力事業団（ＪＩＣＡ）は、1984年7月にメキシコ政府と締結した「メキシコ人口活動促進プロジェクト」を推進させるため、1985年の11月18日から12月3日までの16日間にわたって、大友篤宇都宮大学教授を団長とする日本人専門家グループをメキシコに派遣したが、本研究所からは阿藤誠人口資質部長、坂井博通人口政策部研究員が参加した。

仕事は、主としてメキシコ市にある国家人口審議会事務局兼研究調査機関（CONAPO）で行われた。CONAPO側から本プロジェクトの進捗状況の説明を受け、日本側とCONAPO側双方でプロジェクトの今後の進め方について協議を行った。協議内容は、(1) JICAの長期専門家の役割の拡大化 (2) JICAとCONAPOのコミュニケーションの円滑化 (3) 人口データのデータ・ベース構築プロジェクトと調査プロジェクトの進捗状況の評価と計画調整 (4) JICA側の協力活動の強化などにわたり、その内容はメモランダムとしてまとめられた。

また、日本人専門家によりCONAPO職員に対して多変量解析法の講義、調査データ解析の指導が行われた。

協議の合間をぬって、トラスカラ州とアグアスカリエンテス州を訪問し、各州、各市郡に設置されている人口審議会（COESPPO）の担当者と懇談、人口教育活動の現場を視察した。（坂井博通記）